

明日から冬休みが始まります。3年次生にとっては大事な追い込みの時期です。悔いを残さないよう、最後まで全力を尽くしてください。1・2年次生は、不得意科目を克服することができる時期です。課外講習に参加して理解不足の箇所を補強しておきましょう。予備校の講習に参加して刺激を受けるのもよいでしょう。いずれにしても予習復習をしなければ授業を受ける意味がありません。何のために講習を受けるのかよく考え、自覚を持って臨みましょう。

今月のCOSMOでは、進路について考える手立てとして、「進路の手引き」と新聞記事の利用について取り上げました。是非参考にしてください。

## 「進路の手引き」の手引き



「進路の手引き」を読んでいますか？「進路の手引き」は入試制度や具体的な受験についての疑問や質問にもしっかり答えてくれます。疑問が生じたら、まずは「進路の手引き」を開いてみましょう。

### Q1 「入試制度がよくわからない。」

確かに大学の入試制度は複雑です。私立大学については、大学によってまったく違います。まずは、**進路の手引き 12 ページの「大学入試のアウトライン」**を読んでください。一般・推薦・A0の違い、国公立大と私大の入試の違い、入試の日程などがわかります。14 ページ以降、それぞれの項目について、詳しく説明してあります。

なぜ入試制度は複雑なのか？それは、大学では様々な形態の入試（筆記、センター、公募推薦、自己推薦、A0、帰国生・留学生入試等）により、**様々な能力をもつ生徒に入学してもらいたい**と考えているからです。例えば、忍耐強く勤勉でつらい勉強にも立ち向かえる生徒、人柄がよい生徒、全科目をしっかり勉強し部活動にも取り組んできた生徒、異文化と関わり広い視野をもつ生徒、スポーツや芸術などの才能をもつ生徒などです。**バランスよく学力をつけることが最も大切**なのですが、自分の能力を発揮できる入試制度の活用も考えておくべきです。

### Q2 「先輩たちはどういう大学にどれくらい進学しているの？」「関西に進学する人もいるの？」

**進路の手引き 47 ページ以降**を読んでください。本校の過去5カ年の受験合否状況の一覧表があります。推薦・A0入試の受験合否状況は**53 ページ以降**に掲載されています。

### Q3 「みんなは何校くらい私大を受験するの？」

**進路の手引き 46 ページのグラフ**を見てください。私立大学の一人当たりの出願数が掲載されています。近年、複数学部学科の併願をする場合に受験料の割引をする大学や、1度の受験で複数学部を受験できる大学が増えています。また、関東や関西の大学で、受験会場を仙台に設置する大学もあります。「数打てばあたる」というわけではないので、無理のない受験日程を考え、入れる大学ではなく、**入りたい大学を受験**するべきです。

### Q4 「学費はどれくらいかかるの？」

**進路の手引き 33 ページ以降**に国公立・私立大学の学費と奨学金について掲載してあります。先日、文部科学省は、低所得世帯の学生を対象に月額2万～4万円を給付することを決めました。平成30年度からこの制度は本格的に導入されますが、文部科学省では、奨学金制度の効果が不十分とわかった場合は制度の見直しも検討する方針だそうです。

進路室でも質問・相談に応じます。  
気軽に声をかけて下さい！！

### Q5 「そもそも進路先を決められない。」

**進路の手引き 6 ページ**に進路選択についての見取り図を示しました。進路を決めるには、自分という存在を自分なりに理解し、その自分という人間が社会の中で如何に生きるか、真剣に考えることが前提となります。簡単に進路を決定することはできませんが、繰り返し考えることが大切です。

# 大学についてもっと知りたい!



大学について調べる場合、大学が発行しているパンフレットを読み、学校内外（校内、仙台駅前、国際センターなど）で行われる入試説明会や、各大学のオープンキャンパスに参加すれば、大学の雰囲気や学部・学科の特徴を知ることができます。また、受験雑誌や予備校が出している難易ランキング表を見れば、偏差値を知ることができます。

しかし、世間での一般的な評価について知りたい、あるいは、偏差値とは違う観点から大学を比較してみたい、というのであれば、『**大学ランキング (2016年版)**』（朝日新聞出版）を開いてみてください。（進路室にあります。）現役生比率（教育大学は高い）や高校からの評価（東北大学が1位）、社長の出身大学（卒業生が多い大学は多い）、各国家試験合格者数、女子学生の読者モデル登場数（都心の大学は上位）など、様々な「大学ランキング」が掲載されています。また、新聞や新聞社が発信しているホームページには、大学についての特集記事が掲載されています。例えば、毎日新聞で月に1～2回掲載される、「@大学」という大学情報の記事があります。今、各大学が何を考えどのようなことに取り組んでいるのかを知ることができ、大学を見学したり選んだりするときの参考になります。その中の『「中根」の目 データが語る』では、「JR就職者数」や「女性研究者採択比率」などをとりあげており、その背景についての説明もあるので、各大学の特徴を知ることができます。

下記は『「中根」の目 データが語る』から、2016年9月13日の記事を抜粋したものです。参考にして下さい。



## 「トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム」

は、高校生・大学生を対象とした、官民協働の海外留学促進キャンペーンで、現在、第7期の募集を行っています。2014年度に始まり、20年度までに1万人の派遣留学生を送り出すことを目指しています。このプログラムを利用した大学生は、多い順から、東京大（107人）、慶応大（79人）、九州大（73人）（5期まで）となっています。

学生数比では、以下に示したように、私立大トップが四国大学です。徳島市にある四国大は、このプログラムの地域人材コースで多くの合格者を出し、グローバル人材育成でこの制度を利用している。ちなみに、国公立大トップは東京工業大（1.48%）です。



順位	大学	率(%)	人数
1	四国大学	0.46	10
2	国際基督教大学	0.41	11
3	津田塾大学	0.40	11
4	慶応義塾大学	0.27	79
5	創価大学	0.27	20
6	上智大学	0.26	33
7	早稲田大学	0.17	72
8	芝浦工業大学	0.15	11
9	立命館アジア太平洋大学	0.14	8
10	中央大学	0.12	30

※5期生までの合計人数（5人以上が対象）が今年度の学部学生数全体に占める割合。一部、15年度の学生数で集計



「トビタテ！留学JAPAN 日本代表プログラム」には、2015年度に高校生コースも新設されています。今年度は、511人の2期生が海外に派遣されています。この留学プログラムは、奨学金が支給され、留学期間・留学内容・留学先を自由に設計することができます。現在、3期生を募集しています。関心のある生徒は、まず、進路室前の冊子コーナーにある「VIEW21 高校版 臨時増刊号」を読んでみてください。研修会の様子や留学経験談などが掲載されています。進路室でも質問・相談に応じます。